

上場「スーツ・紳士服 7 社」動向調査

「オーダースーツ」好調、紳士服に復活兆し

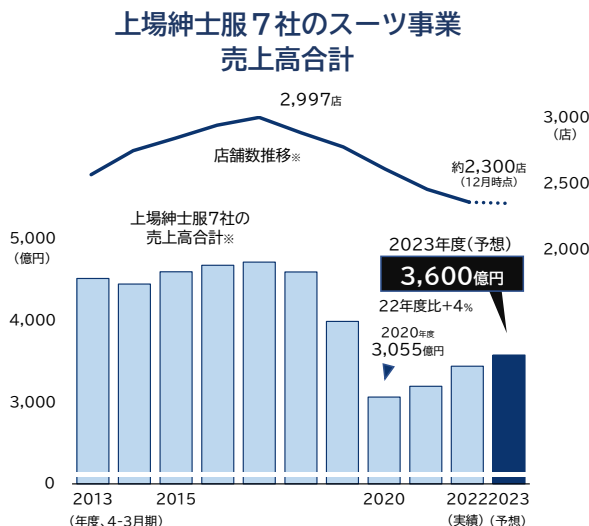
上場紳士服 7 社の売上高、4%増の 3600 億円

店舗数はピークから 2 割減・2300 店舗 コロナ禍での店舗整理が影響

コロナ禍で大きく減少したスーツ需要が戻りつつある。上場するスーツ関連企業 7 社の 2023 年度業績をみると、スーツ事業の売上高合計は前年度比約 4%増の 3600 億円に上る見通しとなった。スーツ事業の営業利益合計も 5 年ぶりに 100 億円を超えるとみられる。スーツ店舗数は 23 年度末時点で 2300 店舗前後になるとみられ、コロナ前で最も多かった 17 年度末 (2997 店) から約 700 店舗減・8 割前後まで縮小する。大手を中心に、コロナ禍に行った大規模な店舗整理が影響した。

コロナ前に比べるとスーツ需要は回復途上にある半面、冠婚葬祭向け礼服需要の回復やオーダースーツ人気の高まり、「ビジカジ」ウェアの販売拡大が各社の業績アップを後押しした。業界首位で「洋服の青山」を展開する青山商事は、自社のオーダースーツブランド「Quality Order SHITATE」を全店舗に導入した。一方、「AOKI」「ORIHICA」を運営する AOKI ホールディングスは、高価格帯「金のスーツ」が好調なほか、「パジャマスーツ」や女性向けウェアの商品提案力を強化した。

足元では「2024 年度の新入学・入社式向けが好調」と聞かれるほか、パターンオーダーを含め「オーダースーツが想定以上に売れている」との声も聞かれる。既存のビジネススーツ以外における商品力の強化が実を結ぶ形で、コロナ禍の苦境から「復活」の兆しが見えている。



[注1] 上場する紳士服 7 社の「スーツ・フォーマルウェア」セグメント売上高合計
[注2] 2023 年度の数値は帝国データバンク推計。店舗数は一部推計値を含む

主要 4 社は 2023 年度で増収を確保

主な上場スーツ 4 社 2023 年度売上高実績・見通し			
	2023 年度の売上高 () 内は前年度比	内容	
オーダー スーツが 好調	青山商事 (連結)	2024 年 3 月期 1,945 億円 (4.8%増)	オーダースーツブランド 「Quality Order SHITATE」を全店舗に展開
	コナカ (連結)	2023 年 9 月期 657 億 9700 万円 (4.2%増)	オーダー専門の 「DIFFERENCE」がコロナの 影響を受けず、新規出店続く
カジュアル ウェアが 好調	AOKI HD (連結)	2024 年 3 月期 1,850 億円 (5.0%増)	「金のスーツ」「パジャマスーツ」 ブランドが好調。働く女性向け ウェアの提案を強化
	はるやま HD (連結)	2024 年 3 月期 375 億円 (1.6%増)	「0秒アイロン」のキャッチフ レーズで、主力商品「i-Shirt」 の魅力強化

[注1] 各社の発表・業界見通し情報等を基に帝国データバンク作成
[注2] 対象企業は上記のほか「グローバルスタイル」「タカキュー」「銀座山形屋」

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。